キマグレ 第1807号 彦根東高校新聞 平成30年（2018年）4月5日（木）

激闘のセンバツを終えて 選手のコメント紹介③

赤鬼の春Ⅱ 60

6 今井怜央君

今井怜央君（2―7）は今回のセンバツを「すごく楽しかったが、僕らのチームの課題が見つかった」と総括した。2回戦の慶応高校戦について「相手投手のピッチングがすごかった。応援してくれる方やチームメイトなど、学校全体の力で勝てた試合だと思う」と声を弾ませ、この試合で放った2安打が得点につながったことを「チームの得点に貢献できたのはうれしいけど、満足せずに練習をしていきたい」と喜びながらも厳しく評価した。また3回戦の花巻東高校戦について「自分の役割があまり果たせなくて、迷惑をかけてしまった」と悔しさをにじませ、「花巻東は先輩が戦って負けた相手なので勝ちたかったが、この悔しさをバネにしてまた甲子園で戦いたい」と先を見据えた。

今後に向けて今井君は「甲子園で戦えたことは良い経験だったが、全国との力の差を感じた。その差を夏に向かって埋めていくのがこれからの課題だ」と目標を掲げた。

7 岡上士門君

「センバツでも十分に戦っていけたと思う」とチームの手応えを口にしたのは岡上士門君（2―4）。今回のセンバツについて「お客さんがたくさんいて、味方の応援も相手の応援もすごかった。もう一度あの場所に立ちたい」と感想を寄せた。3回戦の花巻東高校戦については「相手はほとんどヒットがなかった。チャンスはあったのにそこで決められなかった結果、負けてしまった」と敗因を分析した。また「アルプスが真っ赤で、多くの人が応援に来てくれているのを感じた。それを見ると勇気や元気をもらえた」と笑顔を浮かべた。

また岡上君は「甲子園では雰囲気に呑まれてしまった。緊張してしまったので、自分の気持ちをコントロールする力を日常生活からつけていきたい」と自身の課題を挙げた。今回のセンバツでの収穫を「センバツに出場して、全国にまだまだ強いチームがいることを身をもって実感した。そのことは夏に向けてのモチベーションになると思う」と明かした。最後に岡上君は「夏の県大会で近江高校を倒して優勝し、もう一回甲子園に出て何勝もしたい。最後まで甲子園に残れるようなチームになりたい」と意気込んだ。

8 野嵜重太君

野嵜重太君（2―3）は甲子園での自身のプレーを「気楽にプレーできたが、あまり勝利に貢献することができなかったので悔しい部分が大きい」と打ち明けた。2回戦の慶応高校戦について「初戦はみんな緊張していたが、楽しんで笑顔でプレーすることを徹底していた。相手チームに良い投手がいるなかで、後半を自分たちの野球で詰めていけた良い試合だった」とコメントした。3回戦の花巻東高校戦については「以前の夏の甲子園で対戦していたので、因縁を感じていた。個人的にはあまり活躍できず悔しい。負けてしまい、まだ自分たちの力不足を感じた。この試合で見つかった課題を活かし、春、夏の大会を頑張っていきたい」と悔しさをにじませながらも前向きな姿勢を見せた。また甲子園での真っ赤なアルプスについて「甲子園の真っ赤に染まったアルプススタンドを見て、すごく勇気づけられた」と顔をほころばせた。

野嵜君は課題としてチャンスの場面で一本打つことや一球で仕留められる力強さを持つことを挙げ「試合を想定した練習をすることが重要だと思う。自分で場面を設定していくことが大切だ」と分析した。そして今後に向けて「今回見つかった課題を克服し、夏の甲子園に出て今回以上の成績を残せるように頑張りたい」と意欲を見せた。

彦根東高校新聞

速報新聞
キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号